

令和 3 (2021) 年度 事業報告

1 営業日ならびに営業時間

営業日 月曜日～金曜日及び管理者が定めた日

営業時間 8時30分～17時00分

サービス提供時間 9時30分～15時30分

2 年間開所日数

264日

3 利用者状況 (2022年3月31日現在) (単位:人)

サービスの種類	定員	登録 利用者数	平均 利用者数	新規 利用者数	退所者数
生活介護	14	15	13.5	0	0
就労継続支援B型	13	14	12.3	0	0

平均年齢=31歳 男性:19名 女性:10名 平均区分=4.8

4 職員体制 (単位:人)

サービスの種類	職 種	勤務形態		
		専従 or 兼務	常勤	非常勤
生活介護	医師	専従		1
	生活支援員	専従	1	0
		兼務	3	9
	看護職員	兼務		1
	機能訓練指導員	兼務		1
就労継続支援B型	生活支援員	専従	1	
		兼務		5
	職業指導員	兼務	1	
	目標工賃達成指導員	専従		
兼務		1	3	
共 通	管理者・サービス管理者	兼務	1	

5 利用者送迎

ア 姫路市内を4方面に分け運行し、1回あたり平均21名が利用している。(注)

イ 警報時や体調不良時等、利用者の状態に配慮し、緊急的な送迎にも臨機応変に対応している。

ウ コロナ感染予防として、感染まん延期には公共交通機関で通所される方に対しても送迎を実施。

(注：通常時19名程度、コロナ対応時23名程度となっており、その平均が21名。)

6 研修関係

専門職者としての資質の向上を図る為に、施設内研修や外部での研修に積極的に参加し、専門分野などの知識や最新情報の収集を行っている。

現在、コロナ禍により、オンラインでの研修が主流となっている。よって、遠方で開催される研修にも受講できるようになっている。

ア 事業所内研修

2021.4.16	「職員行動基準」について 上田施設長	13名
2021.5.14	「チームの中で見えるリーダーシップと 1.01倍の関わり」について 入江佳一郎氏	13名
2021.6.18	「対人援助技術」について 上田施設長	16名
2022.1.14	「発達障害のある人の世界①」について 上田施設長	12名
2022.2.18	「発達障害のある人の世界②」について 上田施設長	13名
2022.2.18	「障害者虐待」について 三笠主任	13名
随時	新人研修	

イ 外部研修

日付	内容	参加者	場所
2021.6.14	社会福祉施設等新任職員研修	吉田	オンライン開催
2021.7.9	就労支援事業会計研修	上田	〃
2021.8.5	苦情対応研修	三笠	〃
2021.9.7	サービス管理責任者等基礎研修	三笠	〃
2021.9.12～22	障害者虐待対応力向上研修	金田	〃
2021.9.14	相談支援従事者初任者研修	三笠	〃
2021.10.22	福祉従事者の心得え	大坪 藤原	〃
2021.11.10	サービス記録のポイント	大坪	オンライン開催

2021. 11. 15	BCP 策定・運用のポイント	上田 三笠	〃
2021. 12. 3	虐待防止の意義と方法について	西田	〃
2021. 12. 6	個別支援計画の作成	金田 大坪	〃
2022. 1. 12	福祉サービスの組織と経営	三笠	〃
2022. 1. 21	事業計画作成のポイント	西田 金田	〃
2022. 1. 19 2022. 1. 31	兵庫県強度行動障害支援者養成研修	三笠	〃
2022. 1. 26	労務管理研修	上田	〃
2022. 2. 7	福祉における人事管理の基礎知識	西田 三笠	〃

ウ 事業所見学

日 付	見 学 先	見 学 者
2021. 11. 08	グループホーム・フェリーチェ（姫路市御国野町）	上田
2021. 11. 17	御影倶楽部（神戸市）	藤林、研本

7 会議の開催

ア 職員会議（月 1 回）

- （ア）行事の確認や打ち合わせ、次月予定等の確認を行う。
- （イ）新型コロナウイルスの感染拡大予防、並びに子育て中の職員が会議に参加できるよう、Zoom を活用したオンラインでの参加も可能にしたことにより 9 割以上の職員が毎回、参加出来ている。

イ 個別支援会議（随時）

- （ア）利用者の現状を把握し、課題の分析と今後の支援方法について確認を行う。
- （イ）資料の配布をやめ、ペーパーレス化を図る。
- （ウ）職員専用 LINE にて更新した個別支援計画を閲覧できるようにして情報共有を図り、支援の内容や方向性を職員全体に伝えることができている。

8 健康管理

- ア 看護師による検温、体重測定、血圧測定を定期的実施している。
- イ 新型コロナウイルスの感染拡大予防（21 感染症対策を参照）
- ウ 利用者全員を対象に健康診断を実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染予防の為に中止（9 月）
- エ 常勤職員を対象に健康診断を実施。（2 月）

9 防災対策

ア 現在の状況

- (ア) 9月・3月に漏電による火災を想定した訓練を実施。
- (イ) 姫路東消防署より消火器（訓練用）を借り、使用方法の確認を行う。
- (ウ) 昨年度、不審者侵入や行方不明者対応等の訓練を今年度に行うとしたがコロナ禍の影響にて実施できず。

イ 今後の課題

- (ア) 新たに水害対策（避難訓練）の義務化により避難計画通り、行動出来るかが課題。
- (イ) 災害により甚大な被害が施設やその周辺等に生じた時に利用者への支援提供を継続していく上で事業継続計画（BCP）に基づいた行動や対応が出来るかが課題。

10 利用者支援全般

ア 支援の状況

- (ア) 各利用者との信頼関係を構築し、安心して通所していただけるように配慮している。
- (イ) 視覚支援や環境調整等による、わかりやすく過ごしやすい環境の整備を行う。
- (ウ) 作業時の自助具の作成、活用を適宜行うことで利用者個々の可能性を拓げる取り組みを実施している。
- (エ) 工賃規程を改訂し食品製造手当、食事手当（販売など外部作業にて昼食を自身で確保した場合に支給）施設外就労手当の支給を行い、モチベーションの向上を支援。
- (オ) 外部アドバイザーの助言をもとに、体操やマッサージを取り入れ、拘縮予防等身体的な支援と、心の安定等精神的な支援を行う。
- (カ) タブレット機器を導入し多様な休憩スタイルの時間を設けた。

イ 今後の課題

- (ア) 個々の障害特性に特化した環境調整や取り組みの実施とそれに必要な人材の育成と知識の拡充。
- (イ) 利用者と保護者の高齢化を踏まえた支援が年々必要性を増している。利用者の意向、保護者の意向と家庭状況を適宜把握し、情報提供や相談対応を行えるよう体制を整えていくことが必要。

11 下請け事業部門

【内職作業】

- ・箸のセット、抜き取り
- ・シールセット製品化
- ・サッシ、自動車、自販機部品の組立
- ・靴下フック部分取り付け
- ・ペットフード袋詰め
- ・箱折り（春～夏）

【施設外・清掃作業】

- (通年) ・キャスティウオーク※
- ・姫山公園※
- ・総合福祉会館※
- (春～夏) ・大塩緑道※
- ・ハローズ姫路東店駐車場
- ・ハローズ夢前台店駐車場（新規）

※は姫路市より受託

- (ア) 昨年度は、コロナ禍の影響を元請先が受けたことから作業が滞る等みられたが、今年度は特に影響はみられず、安定して内職作業を進めることができている。
- (イ) 施設外作業として姫路市より清掃業務委託を4件、継続して受注。
- (ウ) 事業所から出た古紙類やアルミ缶を回収し売却。

イ 今後の課題

継続した作業受注と新規開拓を行うとともに、他部門や利用者支援とのバランスを適宜見直し、調整する必要がある。

12 食品製造部門

【主な販売先など】

- ・はーとふる SHOP（市役所・すこやかセンター） ・丸尾町総合センター（まるお喫茶）
- ・イオン姫路店 ・白樺の家 ・もく保育園 ・総合福祉会館
- ・福崎町観光交流センター（新規）・辻川観光交流センター（新規）
- ・社会福祉協議会栗山会館 ・事業所での直接販売 ・オンライン販売
- ※はーとふる SHOP（すこやかセンター）はコロナ禍の影響を受け現在休止中。
- ※まるお喫茶は感染者状況から再開になることもあったが、感染予防のため参加せず。

ア 現在の状況

- (ア) 材料費の高騰と品質の向上を図るため、価格改定。
- (イ) はばたけ授産品コンクールにおいて「妖怪の詰め合わせーしりこ玉を添えてー」が食品部門で審査員奨励賞を受賞。
- (ウ) 他事業所（若葉作業所、きゃのーら）にて委託販売（イベント時）

イ 今後の課題

- (ア) 新商品の開発
- (イ) 委託販路の拡大
- (ウ) 工房業務の人材確保、育成

13 創作活動部門（雑貨等販売部門）

【主な販売先など】

- ・はーとふる SHOP（市役所・すこやかセンター） ・イオン姫路店 ・PRIVATE SHOP MOKU（新規）
- ・姫路の雑貨屋「orange」（新規） ・事業所での直接販売 ・オンライン販売
- ・若葉作業所（イベント時） ・きゃのーら（イベント時）
- ※はーとふる SHOP（すこやかセンター）はコロナ禍の影響を受け現在休止中。

【出展・その他】

- ・こころのアート展（神戸市・しあわせの村）

ア 現在の状況

今年度の活動は、公募展出展、雑貨の販路開拓、アート・雑貨を通じた横のつながりの開拓など以下の活動を行った。

- ・ 藤原恵さん、しあわせの村『こころのアート展』入賞
- ・ 2/7～3/19 姫路若葉福祉会主催『わかばマルシェ-春の新学期応援フェア-』にて販売
- ・ インスタグラムでの情報発信
- ・ 就労継続支援 B 型事業所、御影倶楽部（神戸市東灘区）とのコラボ商品開発
- ・ 私設の児童文庫、すまうら文庫（神戸市須磨区）での作品展に出品、コラボ商品の販売
- ・ 生活介護事業所 schomojina（野里）の作品展を見学
- ・ amiami?（京都府）とのコラボ商品開発（予定）

イ 今後の課題

- （ア）公募展出展をする事によりやりがいを持てる活動を支援することが必要。
- （イ）販売先の拡大と売上の伸びから、在庫の確保が必要。
- （ウ）職員中心の商品作りから利用者が主体性を持った商品作りへの移行と支援。
- （エ）創作活動に興味を示す利用者の作品をより独創的、芸術的に見せる創意工夫など。

14 生活習慣病予防等

ア 支援の状況

- （ア）主に健康増進を目的とし、生活習慣病等予防・悪化防止に努める。具体的方法として昼休みや余暇を利用した散策、登園後すぐのウォーキングや体操、午後の作業時間を利用した山登り等。
- （イ）生活改善等の取り組みが必要な利用者については、個別支援計画に組み込む等し、保護者と連携して取り組みを行っている。
- （ウ）『楽しく前向きに』を意識した取り組みを実践。成果を可視化するなどして、継続的に取り組めるよう個別の支援を行っている。

イ 今後の課題

- （ア）利用者の年齢等を踏まえ、今後、作業や創作活動と並行した取り組みとして形を変化させていくことが必要であり、他活動とのバランスが課題。

15 余暇活動

ア 支援の状況

- （ア）1人当たり年間1,500円（年3回）の予算で、少人数グループによる余暇の支援を行う。
- （イ）感染防止に重点を置き、散策やテイクアウトで食を楽しむなどの余暇を実施。
- （ウ）月に1・2回程度土曜日を開所。主に創作、運動、外出を中心とした企画を実施。感染対策の為に5～6名のグループに分けて実施することにより自由度が増した。
- （エ）余暇参加希望者数は内容により増減するも平均20名程度である。

イ 今後の課題

変化していくコロナ禍の状況に合わせ、実施可能な楽しみを提供し続けることが課題

16 家族との連携

ア 今年度はコロナ禍により活動が制限されており、親睦会・親子旅行も中止となる。

イ 利用者・家族・職員が連携する事により各々の信頼関係を深めている。

ウ 広報誌“ほほえみ”を月に1回発行。事業所の日常や、次月予定をはじめとした情報を

発信している。

17 地域交流

- ア 販売ではコロナ禍の状況を観つつ利用者も参加、社会参加に繋がっている。
- イ 余暇の一環として他事業所の創作展示会等に参加。
- ウ 10周年記念に伴い地域住民にあいさつ回りや礼状などを配布。

18 バザー出店

新型コロナウイルス感染拡大予防により出店機会なし。

19 労務・経理関係

- ア 全職員を対象に管理者による個人面談を実施し、現状の把握や今後の方針を再確認する。
- イ 残業時間を短縮。
- ウ 健康づくりチャレンジ企業（兵庫県）に登録し、職員の健康意識の向上を図る。

20 ICT の活用

ア 現在の状況

(ア) 職員間の情報共有を目的としたオンラインツール活用（LINE、Zoom）や、タブレットの導入。

イ 今後の課題

- (ア) オンラインツールやタブレットを活用することによる個人情報の流出の危険性。
- (イ) タブレットで利用者がインターネットを利用するにあたり、不適切なサイトへのアクセスの予防と対策。
- (ウ) タブレットの多用による職員と利用者及び利用者間同士のコミュニケーション不足。

21 新型コロナウイルス感染症対策

ア 感染予防の取組み実施状況

- (ア) 職員の出勤前検温の実施と記録。風邪症状等や濃厚接触の疑いがある場合は出勤自粛を呼びかけ。
- (イ) 利用者の登園前検温依頼と登園後すぐの検温・記録。平熱より約1℃を超える発熱がある場合等は利用自粛・早退を依頼。
- (ウ) 来所者に対し検温の実施と記録。
- (エ) 1日3回、アルコール消毒液を用いて事業所内の易感染箇所等消毒。
- (オ) 終日を通し生活スペースを分散。3密の防止を図る。
- (カ) 屋内作業場にオゾン空気清浄機を設置した上で、こまめに換気を実施。
- (キ) 手洗い、手指消毒、マスク着用の徹底。
- (ク) 公共交通機関にて通園する全利用者を事業所送迎の対象者とする。（緊急事態宣言、まん延防止等重点措置時のみ）
- (ケ) 職員会議等々の場において、コロナウイルス感染予防をはじめとした内部研修を実施。
- (コ) 送迎車内の常時換気と乗車時の手指消毒実施。

- (サ) 昼食時、利用者同士の間隔を開け、時間差を設けるなどしている。また昼食後の口腔ケアを中止。
- (シ) 感染の疑いのある職員への対応として抗原検査キットを購入。

イ コロナワクチン接種について

コロナワクチン接種の情報を職員間や保護者と共有し、希望者の速やかな接種を促す。接種に関しては本人の意思を尊重しており、法人としてワクチン接種の依頼等を行っていない。結果的に、現時点では2回目まで接種済が9割超※、3回目接種も順次進んでいる状況である。

※職員、利用者全体における割合

ウ 今後の課題

- (ア) コロナ禍において、利用者、保護者、職員それぞれの心身の健康を守り続けることが課題。
- (イ) 感染症が事業所内で蔓延した場合、利用者への支援提供を維持していく上で、事業継続計画（BCP）に基づいた行動や対応が出来るかが課題。